

令和5年度 庄原市児童生徒科学研究の進め方についての研修会

- 日時：令和5年4月26日（水）14：50～16：35
- 場所：庄原市ふれあいセンター コパリホール
- 参加者：庄原市内各小・中学校の教職員22名
- 目的：科学的な態度や能力を育て、問題解決の方法を習得させる科学研究の進め方について研修し、庄原市内各小・中学校の科学研究を推進する。

講話・演習「科学研究の進め方」

講師：広島県立教育センター 教科教育部 指導主事 井上 翔太

【講話から】

- 科学研究は、テーマの設定から仮説や研究計画の立案、観察や実験の実施、結果の検討、分析・考察、まとめ（表現）を含む「探究の過程」を2周以上行うこと。
- 科学研究を指導するにあたり、次のことを心がけたい。
 - ・とにかく児童生徒と一緒に実験をやってみる。
 - ・先生自身が「どうなるのだろう？」とわくわくする。
 - ・科学研究を通して児童生徒が成長していることを、児童生徒や他の教職員、保護者が共有する。

【令和4年度入賞作品から】

作品パネルから優れた研究について学んだ。



【演習から】

- エタノールを用いた「水溶液」の性質に係る実験
 - ・水を入れたバットに、長方形に切った用紙に切り込みを入れ、エタノールを一滴垂らすことにより起きた事象について、考察をする。
 - ・本演習によって生じた科学的な事象から、科学研究に発展させるために、必要な条件や留意すべき点について交流した。

【参加者の感想より】

- 自分が好きなことが、何でも科学研究になり得ること。ただし、科学研究にするためには、教師からの支援も必要だと思ったので、今後、色々試したいと思った。
- 評価のポイントが、指導のポイントにつながっていると感じました。児童の力を伸ばす指導につなげたい。
- 身近な疑問から科学研究に発展させるための具体的な方法が参考になった。過去の科学作品を参考にし、データの集め方やまとめ方を児童に教えていきたい。
- 実際の実験から、どのような研究にしていけばよいか、生徒に考えさせながら説明すると、生徒も「研究の進め方」がより理解できるのではないかと感じた。また、生徒自身が納得し、探究の過程に沿った作品が一つでも多くなるようにサポートしたい。